

提案書要約

- 1 事業名 業務用小型プラスチックボトルのリユース・リサイクルの実装事業
- 2 応募者名 メビウスパッケージング株式会社
- 3 内 容

3-1. 目的・位置づけ

弊社が本事業に取り組む目的は、社会や環境の変化に合わせた”新たなプラスチック容器の製造・販売事業スタイル”を提供し、そのことによって企業価値を高めることである。

3-2. 本事業の取り組みの内容

本事業は、使い捨てプラスチック容器の一部を繰り返し使えるリユース容器に置き換える「リユース事業」と、リユース容器の回収時に、使い捨て容器も同時に回収してリサイクル材へ再生する「リサイクル事業」から構成される。活動範囲は関東圏から近畿圏の産業・商業集積地域で、東京都を中心に推進する。

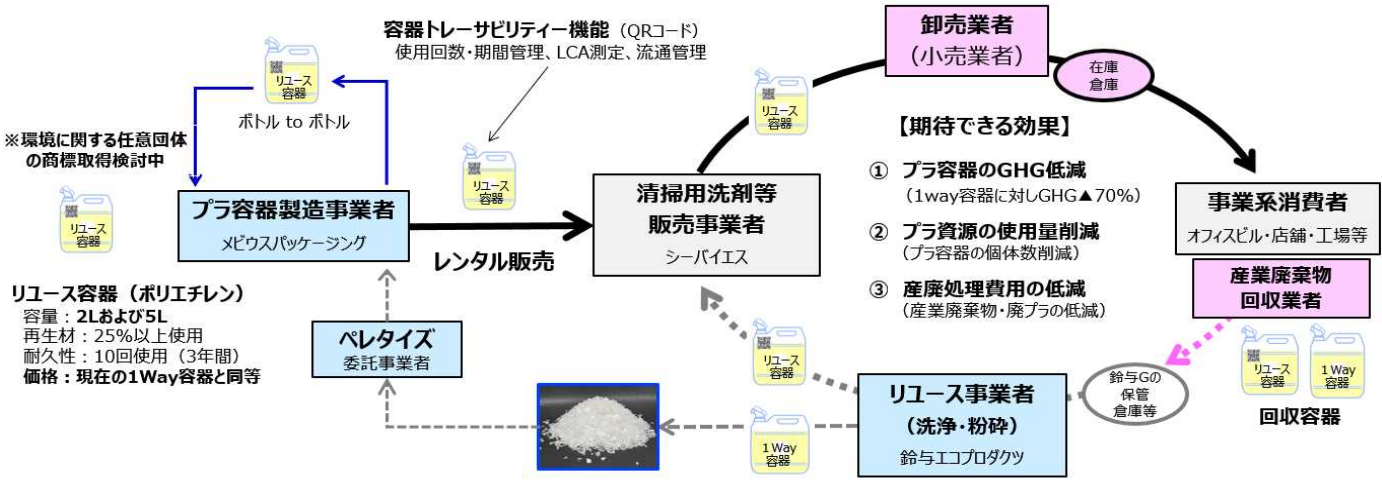
3-3. 期待される効果

- ①プラスチック容器の二酸化炭素量排出量の削減（▲70％削減）
- ②プラスチック資源（プラ容器原料）の使用量削減（3分の1に削減）
- ③産業廃棄物処理・廃プラ処理費用の低減
- 「取り組み事例」
- ①：産総研グループのAIST Solutionsとともに、GHG排出量算出モデルの作成中。
- ②：2025年8月中旬より、静岡県内にて、2Lリユース容器の小規模な実証実験を開始。
- ③：現行大型リユース容器の廃棄品からPCR材を試作し、小型リユース容器への25％添加サンプルを作成評価中。

3-4. 社会実装を見据えた現時点の課題

- ①リユース事業
- 販売数量が確定していない。実装化事業による広報宣伝を利用して取引事業者を増やし、損益分岐点数量までの販売予測を積み上げる。
- ②リサイクル事業
- 事業計画が完成していない。回収容器の品質や回収費用に、一部に不明点があるため、実装化事業を行い、その費用を測定する。

メビウスパッケージングでは、業務用プラスチック容器のリユース・リサイクル事業を計画しています
対象製品は、「清掃用洗剤・除菌アルコール・ハンドソープ」に使われるポリエチレン容器です



3-5. 本事業終了後の定着させる方策

本事業を定着させるためには、リユース容器の普及と回収拠点の拡大が必要である。また、本事業のリユース事業とリサイクル事業には相乗効果がある。よって、その相乗効果を利用して回収量のスケールメリットを引き出し、経済合理性が確保しながら定着させる。

3-6. 取り組み実績について

今回の連携事業者である鈴与エコプロダクツは、2000年初頭から10t以上の大型業務用プラスチック容器の洗浄リユース事業に既に取り組んでいる。

3-7. 実施体制

本事業は、プラスチック容器の製造・販売を行うメビウスパッケージング株式会社、リユース事業を担当する鈴与エコプロダクツ株式会社（および鈴与商事株式会社）、清掃用洗剤の製造・販売を行うシーバイエス株式会社の3社が連携体制を組む。

【概略スケジュール】

- 2025年10月～12月 （1回目）リユース容器製品のモニター使用・回収洗浄（1way容器含む）
- 2026年 1月～2月 （2回目）リユース容器製品のモニター使用・回収洗浄（1Way容器含む）
およびリサイクル材ペレタイズとリサイクル材混合リユース容器の試作評価